



令和 8 年 9 月 4 日

国土政策局地方政策課

“地域活性化へ” 官民連携基盤整備の支援事業を決定 ～民間と自治体が連携して取り組むインフラ整備の事業化検討を支援します～

国土交通省は、「官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業（官民連携基盤整備推進調査費）」の令和 8 年度第 2 回配分として、地方公共団体が実施する 7 件の調査（道路・都市・公園）の支援を決定しました。

本事業は、民間の設備投資等と一体的に計画される地方公共団体のインフラ整備（道路・河川・公園・市街地整備・港湾・空港等）の事業化検討を支援するための制度です。

配分先：地方公共団体

補助率：1/2 以内

【添付資料】

- ・別添 1 令和 8 年度第 2 回実施事業一覧
- ・別添 2 令和 8 年度第 2 回実施事業概要（調査計画書（案）の概要）
- ・別添 3 官民連携基盤整備推進調査費の制度概要

【その他】

- ・募集情報や過去の実施例等は以下をご覧ください。

国土交通省 HP「官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業」

(<https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kanminrenkei.html>)

【問合せ先】

国土政策局地方政策課調整室

専門調査官 龍

主査 立川

代表：03-5253-8111（内線 29-914、29-916）

直通：03-5253-8360

令和8年度 官民連携基盤整備推進調査費 第2回実施事業一覧

別添1

調査名		実施主体	対象地域	概要	実施計画額（千円）	
					事業費	国費
1	横手市副拠点エリアにおける賑わい及び交流創出のための基盤整備検討調査	横手市	秋田県横手市	横手市十文字地域は、十文字駅や十文字ICを擁する交通結節点として発展してきた一方、「道の駅十文字」周辺では公共施設の老朽化や廃校・文化施設跡地などの活用が課題となっている。市は住民、子育て支援団体、中・高校生との対話を重ね、「シン・十文字拠点基本構想」を策定。本構想の基本コンセプトである子育て世代を中心に多世代が集う憩いの場を核とした交流拠点形成の実現に向け、拠点整備が求められていることから、地域交流センターや公園等整備に係る調査、設計及びPPP/PFI導入可能性検討を行う。	42,500	21,250
2	南流山駅前広場再整備による賑わい・魅力創出のための基盤整備検討調査	ながれやまし流山市	千葉県流山市	南流山駅周辺は、つくばエクスプレス開業とJR武蔵野線との結節により交通便利性が高まり、子育て世帯を中心に人口が集積する住宅市街地として発展している。一方、乗換利用が多く、駅前には滞留や回遊を促す空間・機能が不足しているほか、通勤・通学時には車両と歩行者の動線が錯綜し、安全確保が課題である。バス停留所の集約と連携して駅前広場を再整備し、交通結節機能と安全性を高めるとともに、交流や賑わいを生み、回遊性を高める駅前空間を形成するため、駅前広場再整備に係る設計及びPPP/PFI導入可能性検討を行う。	30,000	15,000
3	小千谷駅周辺再整備による拠点機能向上のための基盤整備検討調査	おぢやし小千谷市	新潟県小千谷市	小千谷駅は、JR上越線の主要駅として、市民の日常利用や観光・ビジネスなど来訪者の移動を支える中心市街地の玄関口である。一方、駅前広場は整備から約50年が経過し、施設の老朽化、バリアフリー対応、駐車場不足に加え、人々が集い交流する空間の不足が課題となっている。鉄道事業者による駅機能強化と連携し、駅前広場と周辺駐車場を一体的に再整備することで、交通結節機能と滞留・交流機能を充実させ、賑わいの創出や中心市街地との回遊性向上につなげるため、駅周辺整備に係る調査及び設計を行う。	17,000	8,500
4	上諏訪駅周辺地区における地域活性化のための基盤整備検討調査	すわし諏訪市	長野県諏訪市	上諏訪駅周辺は、市道柳並東線の全線開通により諏訪湖畔へのアクセスが向上し、交通結節点及び観光・交流拠点として重要性が高まっている。一方、西口改札が設置されていないため、観光資源が集積する湖畔や西口市街地へのアクセス性の向上が課題である。そのような中で、公民連携組織「スワ・マチ・ミライ」の設立や社会実験を通じて、駅前のあり方への議論が活発になっている。こうした官民連携の動きに合わせ、西口駅前広場を再整備し、西側市街地への円滑な動線を確保することにより、観光振興及び中心市街地の活性化、交流・賑わいの創出を図ることを目的として、駅周辺整備に係る調査及び設計を行う。	22,000	11,000
5	みさき公園再整備による賑わい創出・地域活性化のための基盤整備検討調査	みさきちょう岬町	大阪府岬町	大阪府最南端の岬町は、関西国際空港や和歌山市に近接する立地を生かし、インバウンドを含む広域観光を推進している。岬町立みさき公園は、長年、大阪南部のシンボルとして観光を支えてきたが、施設の老朽化や運営事業者の撤退により遊園地・動物園等が閉園し、利用者が大幅に減少した。一方、宿泊事業への民間投資や新たなイベント計画など、官民連携による再生の機運が高まっており、賑わい創出と地域活性化を担う拠点として再生するため、公園再整備に係る調査、設計及びPPP/PFI導入可能性検討を行う。	21,600	10,800
6	高千穂町におけるまちなか交流拠点整備のための基盤整備検討調査	たかちほちょう高千穂町	宮崎県高千穂町	高千穂町中心部の旧高千穂バスセンター周辺は、路線・高速バスの発着地として町民や観光客が集う重要な交通結節点である。一方、公共施設の老朽化・不足に加え、観光情報の発信や待合・休憩機能が十分でなく、中心市街地の回遊性や賑わいの創出が課題となっている。民間事業者による交流イベントや観光案内サービスと連携し、公共施設を集約し交流・滞在・交通結節機能を一体的に備えた拠点施設を整備することで、公共交通の利便性と回遊性を高め、町民と観光客の交流、中心市街地の再生及び地域活性化を図るため、まちなか交流拠点施設整備に係る調査、設計及びPPP/PFI導入可能性検討を行う。	20,000	10,000
7	高千穂町における新たな道の駅整備のための基盤整備検討調査	たかちほちょう高千穂町	宮崎県高千穂町	高千穂町の「道の駅高千穂」は、地域産業と観光振興の拠点として機能してきたが、九州中央自動車道の整備等に伴う来訪者の増加に対し、駐車場、休憩施設、農産物直売所等の規模が不足している。現施設は地形上、拡張が難しく、地域団体からも観光・地域活性化・防災機能を備えた新施設が求められている。民間事業者による地域産品の高付加価値化や観光体験、イベント等と連携し、道の駅を（仮称）高千穂IC周辺へ移転整備することで、施設拡充と防災機能強化を図り、誘客促進と地域経済の活性化につなげるため、道の駅整備に係る設計及びPPP/PFI導入可能性検討を行う。	20,000	10,000
計7箇所					173,100	86,550

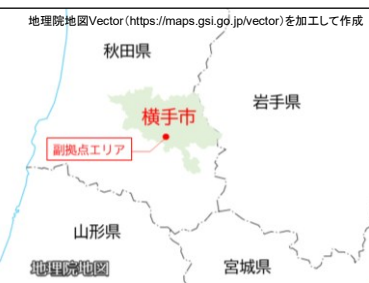
別添2

地域の特徴等

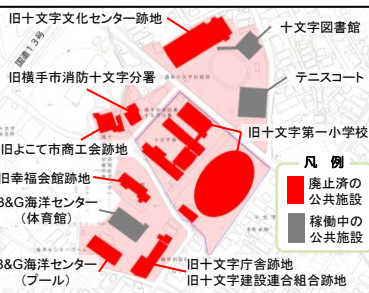
- 横手市十文字地域は、横手市都市計画マスタープランにおいて「副拠点エリア」に位置付けられており、JR奥羽本線十文字駅や東北中央自動車道（湯沢横手道路）十文字ICを有する交通結節点として発展してきた地域である。
- 一方で、地域の中心部にある「道の駅十文字」周辺では、既存公共施設の老朽化も進行しているほか、廃校となった小学校や文化施設跡地などの公共用地の利活用が喫緊の課題となっている。
- このため、市では住民や子育て支援団体、中・高校生との対話を重ねながら、当該地域の将来像や拠点整備の基本方針を示す「シン・十文字拠点基本構想」を策定。本構想においては、子育て世代を中心に多世代が集まる憩いの場を核とした賑わい交流拠点の形成を基本コンセプトとしており、その実現に向け、地域交流センターや公園等の整備を含む拠点整備が求められている。

よこてし

位置図



旧十文字文化センター跡地



公共施設の状況

(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・平成31年3月 都市計画マスタープラン策定
- ・令和7年6月 商工団体、子育て支援団体、中高生、
～令和8年1月 事業者等と副拠点エリア整備に関する
意見交換を実施
- ・令和8年3月 第2期横手市まち・ひと・しごと創生総合戦略
改定（副拠点エリア整備事業（十文字地域）を明記）
- ・令和8年3月 シン・十文字拠点基本構想策定



(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・観光協会による狸々まつりの規模拡大（令和13年度～）
- ・地元民間企業による道の駅十文字と連携したイベントの実施（令和13年度～）
- ・PPP/PFI事業者による副拠点エリアの整備・管理運営（令和13年度～）

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・既存公共施設の老朽化が課題となっているほか、公共施設跡地が有効に利活用されていない
- ・副拠点としての機能強化や利便性の向上に加え、防災拠点や観光振興の役割も兼ね備えた「子育て世代を中心に多世代が集う賑わい交流拠点」の整備が求められている

(4) 【調査内容】

- ①副拠点エリア整備に係る測量調査
- ②副拠点エリア（地域交流センター、公園、駐車場等）整備に係る概略設計（施設機能検討、配置計画検討、基本計画図作成、概算事業費算出等）、整備効果の検討
- ③副拠点エリアの整備・管理運営に係るPPP/PF導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- 民間のノウハウを活かした様々なサービスの導入による、賑わいの創出や観光誘客
- 定住促進と交流人口の増加による持続可能な地域経済の好循環の創出

南流山駅前広場再整備による賑わい・魅力創出のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 南流山駅周辺は、つくばエクスプレスの開業及びJR武蔵野線との結節による交通利便性の向上を背景として、住宅開発や都市基盤整備が進展し、子育て世帯を中心とする人口の集積が進む流山市を代表する住宅市街地となっている。
- 一方、南流山駅は広域的な交通結節点として多くの利用者を抱えるものの、利用者の多くが乗換えを目的としていることに加え、駅前に滞留や回遊を促す空間・機能が十分ではないことから、駅前空間の滞留性や回遊性が低い状況にある。また、通勤・通学時間帯には送迎車両や公共交通車両と歩行者の動線が錯綜し、車両の滞留や歩行者の安全確保が課題となっている。
- このため、バス事業者によるバス停留所の集約等と連携しながら駅前広場の再整備を推進し、交通結節機能の強化と安全性の向上を図るとともに、交流や賑わい、回遊性を備えた駅前空間を形成することで、本市の玄関口にふさわしい魅力ある拠点の形成が求められている。

ながれやまし
【調査箇所：千葉県流山市】
位置図



南流山駅（流山市）

(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- 平成17年8月：つくばエクスプレスの開業
（南流山駅への駅利用者が増加）
- 令和5年9月：木地区一体型特定土地区画整理事業の換地処分
（南流山駅周辺における道路や宅地等の整備が完了）
- 令和6年2月：南流山駅周辺地区まちなみづくり指針を策定
（南流山駅周辺コンセプト：多くの人が集まるまちにふさわしい、たくさんの魅力がつながるまち）
- 令和8年5月：南流山駅前広場改修基本計画を策定

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・民間バス事業者によるバス停留所の集約・バスのダイヤ変更（令和12年度～）
- ・鉄道事業者による駅舎等の外構等の改修を実施（令和10年度～）
- ・NPO法人等による賑わい・魅力創出に繋がる物販等のイベントの開催（令和12年度～）
- ・地元協議会等によるお祭りやマルシェなどのイベントの開催（令和12年度～）
- ・PPP/PFI事業者による駅前広場の再整備・管理運営（令和12年度～）

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・鉄道2路線とバスの交通結節点としての機能強化と利便性を向上するため、歩行者と車両の交錯や駅前利用車両の滞留の解消に資する駅前広場の再整備が必要
- ・南流山駅前広場における賑わい・魅力創出のため、民間事業者や市民のニーズを踏まえ、駅利用者等が立ち寄りたくなる駅前広場の再整備が必要

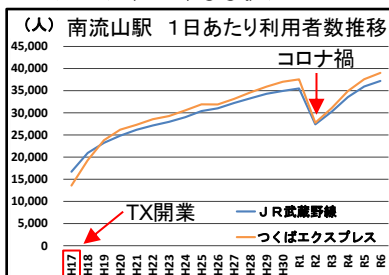
(4) 【調査内容】

- ①駅前広場の概略設計（基本的仕様の検討、基本設計図の作成、施設配置検討、バース作成、概算事業費算定等）
- ②駅前広場の再整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

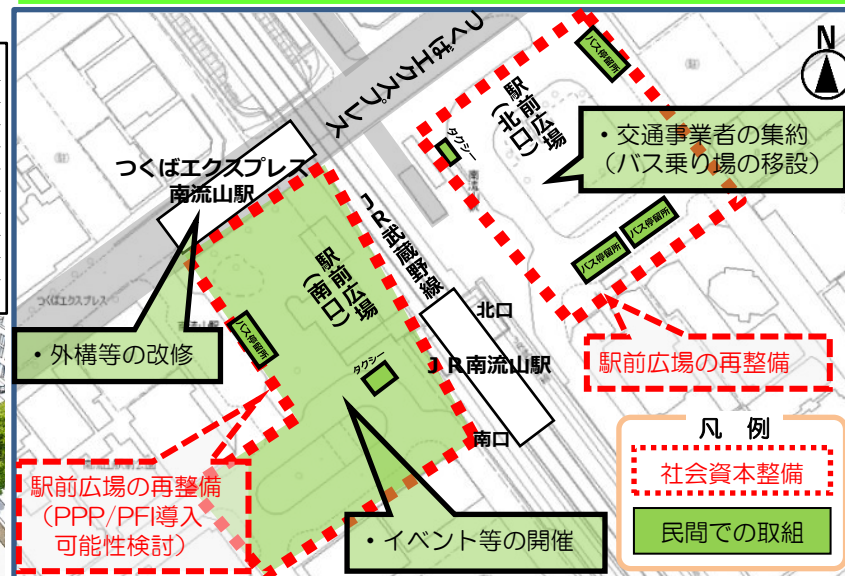
(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・バス停留所の集約等と一体的に行うことにより、交通結節点としての機能が強化され利便性が向上
- ・駅前広場の拡張と指針による周辺の高度利用化の相乗効果で駅前空間の価値が向上し、賑わい・魅力の創出

地理院地図（<https://maps.gsi.go.jp/>）を加工して作成



南流山駅南口広場
完成イメージ図



小千谷駅周辺再整備による拠点機能向上のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 小千谷駅は、JR東日本上越線の主要駅として、本市中心市街地への玄関口であり、市民の日常利用や観光・ビジネスなど、来訪者の移動を支える重要な交通結節点となっている。
- 一方で、駅前広場の整備から約50年が経過し、施設の老朽化やバリアフリー化への対応、駐車場不足などの課題を抱えている。また、来訪者や地域住民が集い交流できる滞留・交流空間が不足しており、本市の玄関口としての魅力向上が求められている。
- このため、鉄道事業者による駅機能強化と連携しながら、駅前広場や周辺駐車場を含めた一体的な再整備を推進し、交通結節機能の向上に加え、滞留・交流機能の充実を図ることで、人々の交流や賑わいを創出し、中心市街地との回遊性向上を図り、本市の玄関口にふさわしい魅力ある拠点の形成が求められている。

【調査箇所： おぢやし
新潟県小千谷市】



(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・令和7年3月：小千谷都市計画マスタープランを改定（駅前広場や駐車場の整備方針を明記）
- ・令和7年3月：小千谷市バリアフリー基本構想を策定（駅前広場周辺施設のバリアフリー化を明記）
- ・令和8年3月：第六次小千谷市総合計画を策定（駅周辺のバリアフリー化と再整備を具体施策として明記）

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・鉄道事業者による跨線橋拡幅、ホーム拡幅及びエレベーターの設置着手（令和8年度～）
- ・地域振興協議会による有料駐車場の運営（令和13年度～）
- ・観光協会によるレンタサイクル事業及びマルシェ等の実施（令和13年度～）
- ・交通事業者によるカーシェアリング事業の実施（令和13年度～）

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・施設の老朽化及びバリアフリー化に加え、社会状況の変化に伴い、駐車場が不足しているため、駅前広場における利便性を向上させ、交通結節点としての機能強化が必要
- ・駅前周辺の来訪者や住民が滞留・交流する機能が不足しているため、滞留・交流機能を兼ね備えた再整備が必要

(4) 【調査内容】

- ① 駅前広場周辺（駅前広場、駐車場等）再整備に係る基礎調査（地形測量、地質調査）・概略設計（基本設計図の作成、施設配置検討、パース作成、概算事業費算定等）

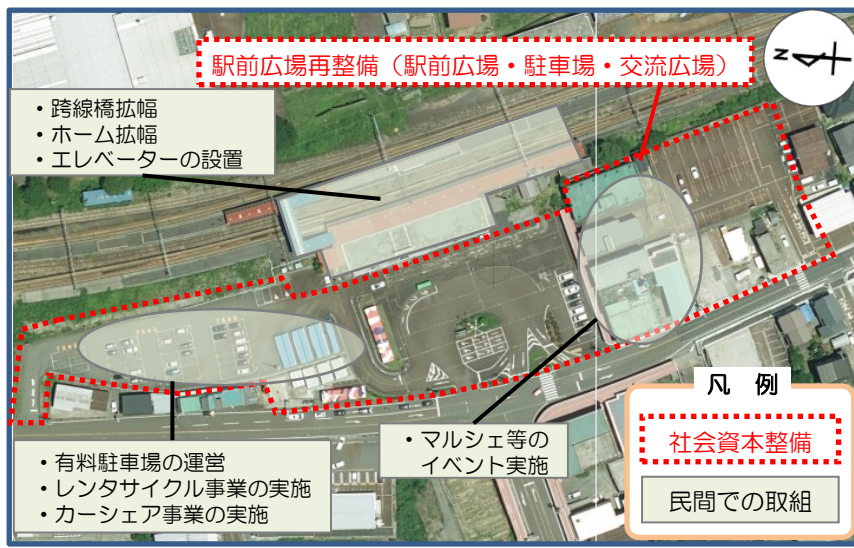
(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・交通結節機能の向上が図られるとともに、駅前広場の利便性が向上し、人々の交流や賑わいを創出
- ・中心市街地との回遊性向上により市街地拠点機能が強化

駅前広場の現況



駅北駐車場の現況

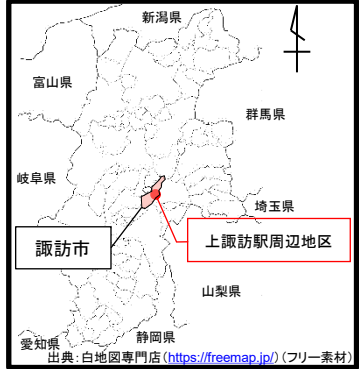


上諏訪駅周辺地区における地域活性化のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 諏訪市では、令和3年4月の市道柳並東線の全線開通により上諏訪駅から諏訪湖畔へのアクセス性が向上し、上諏訪駅周辺地区は広域交通の結節点として、また観光・交流拠点としての重要性が一層高まっている。
- 一方、駅西側には諏訪湖や諏訪湖イベントひろば等の観光・交流資源が集積しているものの、西口に改札口が設置されていないため、諏訪湖畔や西口市街地へのアクセス性・回遊性の向上が大きな課題となっている。
- そのような中で、令和6年3月に公民連携のエリアプラットフォームである「スワ・マチ・ミライ」が設立され、公民連携によるまちづくりの推進が協議されている。また、令和7年9月に駅周辺の空間利用検討に向けた社会実験を実施した結果、地元住民等による駅前広場の利用ニーズが確認された。このように、駅前のあり方への議論が活発になっているなかで、西口駅前広場を再整備し、駅から西側市街地への円滑な動線を確保することで、観光振興及び中心市街地の活性化による交流・賑わいの創出を図ることが求められている。

【調査箇所：長野県諏訪市】
位置図



駅周辺の空間利用検討に向けた社会実験の様子（令和7年9月）

(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・ 令和5年3月 上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン策定
- ・ 令和6年3月 スワ・マチ・ミライ設立
- ・ 令和7年9月 駅前広場で社会実験を実施
- ・ 令和8年6月 上諏訪駅周辺地区整備基本構想策定

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・ クリスマスマーケットプロジェクトチームによる交流イベント（マルシェ・クリスマスマーケット）の開催（令和13年度～）
- ・ 鉄道事業者による駅ホームから西口へのアクセス機能整備のための線路の一部廃止を含む鉄道施設改良（令和15年度～）

凡 例

- 社会資本整備
- 民間での取組

・ 駅ホームから西口へのアクセス機能整備のための線路の一部廃止を含む鉄道施設改良

・ イベントやマルシェの開催

西口駅前広場、駐車場、ロータリー等の整備

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・ 地元の団体、市民、駅利用者が自由に使える広場機能が不足しており、多目的な広場の整備が必要
- ・ 西口に改札が設置されていないため、駅ホームから直接西口にアクセスすることができない

(4) 【調査内容】

- ① 上諏訪駅周辺地区の再整備に伴う測量業務
- ② 上諏訪駅周辺整備（西口駅前広場、駐車場、ロータリー等）のための概略設計（導入施設の規模・配置検討、概算事業費算出、概略設計図作成等）

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・ 多目的広場の整備により、人が集い、イベントやマルシェの開催を通じて賑わいの創出につながる
- ・ 駅ホームと西口を結ぶ新たなアクセス機能の整備により、利便性が向上し、西口の活性化につながる

みさき公園再整備による賑わい創出・地域活性化のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 大阪最南端に位置する岬町は、関西国際空港及び和歌山市に近接しており、インバウンドを含めた広域観光の促進に取り組んでいる。
- 岬町立みさき公園は、昭和32年に開設され、60年以上の長きにわたり大阪南部エリアのシンボルとして観光産業の中核機能を担ってきたが、施設の老朽化等が進み、管理運営を担ってきた事業者の撤退に伴い、公園内の遊園地や動物園等は現在閉園し、利用者数は大幅に減少している。
- 地域においては、宿泊事業への民間投資や、民間事業者による公園内での新たなイベントの開催計画もあるなど、公園のリニューアルを図りながら、公園を官民連携により再生しようという機運が観光協会を中心に高まっていることから、PPP/PFIの活用も視野に入れながら、公園の再整備を進め、賑わい創出と地域活性化の拠点として再生することとしている。

みさきちょう
【調査箇所：大阪府岬町】

位置図



事業者撤退前の公園の様子



事業者撤退後の公園の様子



(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・令和2年3月 管理運営事業者の公園管理運営からの撤退
- ・令和3年3月 「第5次岬町総合計画」策定（みさき公園を広域交流拠点として位置づけ）
- ・令和3年5月 「岬町みどりの基本計画」策定（都市基幹公園としてみさき公園再整備を位置づけ）
- ・令和8年5月 公園再整備に向けた住民とのタウンミーティングを実施

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・民間事業者による宿泊施設の運営開始（令和8年度～）
- ・岬町観光協会等によるイルミネーションイベントの開催（令和9年度～）
- ・民間事業者等による新規ツアー等の実施（令和12年度～）
- ・PPP/PFI事業者による公園の整備・管理運営（令和12年度～）

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

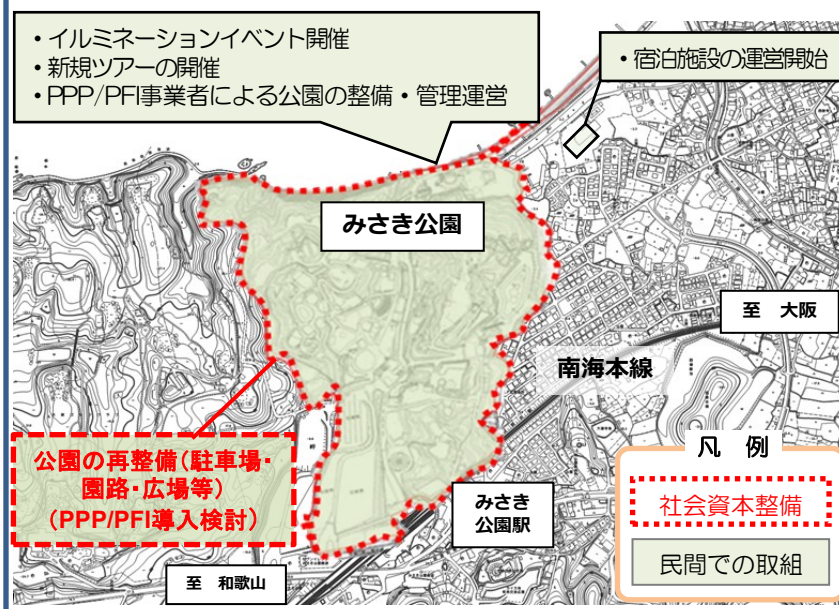
- ・観光需要の増加やレジャーの多様化に対応し、減少した利用者数を回復させるため、集客機能と消費拡大を牽引する賑わい拠点としての公園施設整備が必要
- ・広域観光拠点として、周辺地域の公園利用者の生活利便性の向上とインバウンド等の観光客受入を両立する基盤整備が必要

(4) 【調査内容】

- ① 公園整備（広場、園路、駐車場等）に係る概略設計（基本的仕様の検討、施設配置検討、概略設計図作成、パス作成、概算事業費の算出等）
- ② 公園の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・集客機能と消費を創出する賑わいの拠点の機能強化及び持続的な管理運営の実現
- ・民間ノウハウを生かした交流人口（観光客数）の増加及び地域観光産業の売上拡大



高千穂町におけるまちなか交流拠点整備のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 宮崎県北西部に位置する高千穂町は、高千穂峡や高千穂夜神楽をはじめとする豊富な観光資源を有し、西臼杵地域の中心地として行政、商業、医療及び交通などの都市機能が集積している。また、町中心部に位置する旧高千穂バスセンター周辺は、路線バスや高速バスの発着地として、町民や観光客が集う交通結節点として重要な役割を担ってきた。
- 一方で、旧高千穂バスセンター周辺においては、町民が気軽に滞在・交流できる公共施設が老朽化・不足しているほか、来訪者への情報発信機能や待合・休憩機能等が十分ではないため、中心市街地における回遊性や交通結節機能が十分に発揮されておらず、賑わい創出が課題となっている。
- 現在、旧高千穂バスセンター周辺では、民間事業者による交流イベントや観光案内サービス等の実施に向けた調整が進められている。こうした取組と連携しながら、公共施設を集約し、交流・滞在・交通結節機能を一体的に備えたまちなか交流拠点施設を整備することで、公共交通の利便性向上や回遊性の向上を図るとともに、町民と観光客が集い交流する空間を創出し、中心市街地の賑わい再生と地域活性化を図ることとしている。

たかちほちょう
【調査箇所：宮崎県高千穂町】



- ### (1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）
- ・ 令和4年5月 高千穂町立地適正化計画公表
 - ・ 令和5年7月 高千穂バスセンター跡地利活用の検討開始
 - ・ 令和8年3月 第6次高千穂町総合長期計画策定
 - ・ 令和8年6月 たかちほの杜プロジェクト基本構想策定（まちなか交流拠点の整備を明記）
 - ・ 令和8年9月 観光協会が対象地近隣に事務所を移転

- ### (2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定
- ・ 観光協会による周遊観光の実施（令和9年度～）
 - ・ 旅客自動車運送事業者による周遊観光の実施（令和13年度～）
 - ・ 地域づくり法人と連携した交流イベント、マルシェの開催（令和13年度～）
 - ・ PPP/PFI事業者によるまちなか交流拠点の整備・管理運営（令和13年度～）

密接な
関連性



- ### (3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）
- ・ 町内公共施設の老朽化や低利用による公共施設の再編が必要
 - ・ 待合空間や駐車場などの交通結節機能が十分ではなく、利便性向上が求められている
 - ・ 交流の場の不足により回遊性や賑わいが低下している現状を踏まえ、人の流れを考慮したアクセス道路や交流広場などの基盤整備が必要

- ### (4) 【調査内容】
- ① まちなか交流拠点施設（地域交流センター、駐車場、広場、アクセス道路、待合室等）整備に係る現況測量・基本設計（配置計画検討、基本設計図作成、概算事業費算出等）
 - ② まちなか交流拠点の施設整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

- ### (5) 民間の活動と一体的に整備する効果
- ・ まちなか交流拠点施設整備と民間事業者のサービス提供による、賑わいや交流のある空間の創出
 - ・ 観光協会と連携した観光案内や交通サービスの向上による回遊促進

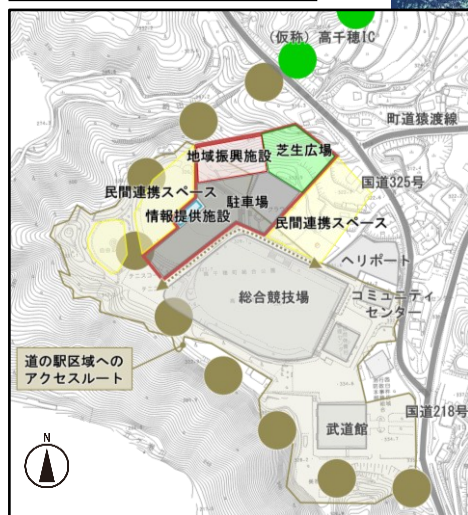
地域の特徴等

- 高千穂町は、高千穂峡や高千穂夜神楽をはじめとする豊富な観光資源を有する九州有数の観光地であり、年間約150万人が訪れている。「道の駅高千穂」は平成15年の開業以来、地域産業の振興や観光振興の拠点として重要な役割を担ってきた。
- 一方で、近年では九州中央自動車道の整備進展などに伴う来訪者の増加により、駐車場や休憩施設、農産物直売所等の施設規模が利用者需要に対して不足しているが、現施設は地形的制約から拡張が困難であり、十分な機能強化を図ることができない。加えて、観光協会をはじめとする地域団体からは、要望書が提出されるなど、観光振興や地域活性化、防災機能を備えた新たな道の駅の整備が求められている。
- 現在、民間事業者において、地域産品の高付加価値化や観光体験コンテンツの造成、イベント開催等を通じて賑わいの創出を目指す動きがある。こうした取組と連携して（仮称）高千穂IC周辺に新たな道の駅を整備・移転し、駐車場や物産販売施設等の拡充、防災機能の強化を図り、更なる誘客促進や地域経済の活性化につなげることをしている。

位置图



新たな道の駅のイメージ



- ・令和3年4月 九州中央自動車道 高千穂雲海橋道路 新規事業化
- ・令和7年5月 観光協会等地元団体が連名で新たな道の駅整備に関する要望書を町長に提出
- ・令和8年3月 第6次高千穂町総合長期計画後期計画策定
- ・令和8年6月 たかちほの杜プロジェクト基本構想策定
(道の駅の新設を明記)

熊本(高森町)方面



熊本(山都町)方面

- ・旅客運送事業者と連携した道の駅を拠点とした周遊観光の実施（令和13年度～）
- ・地域づくり法人や農業協同組合、学校と連携した6次産業化商品の開発・販売（令和13年度～）
- ・観光協会や地元事業者と連携した地域の食、農産物を活用したマルシェ、夜神楽等の体験型のイベント開催（令和13年度～）
- ・PPP/PPF事業者による道の駅の整備・管理運営（令和13年度～）

密接な
関連性

- ・利用者需要の増加に伴う施設面積や駐車マスの不足への対応が必要である一方、地形的制約から現施設の拡張が困難
- ・地域の活性化拠点としての機能強化が必要

- ① 道の駅（地域振興施設、情報提供施設、広場、トイレ、駐車場、防災関連設備等）整備に係る基本設計
（配置計画検討、基本設計図作成、イメージパース作成、概算事業費算出等）
- ② 道の駅整備及び管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

- ・道の駅整備と民間事業者のサービス提供による、施設利用者数及び売上高の増加、観光周遊の促進
- ・民間事業者の商品開発・販売による地域産業の高付加価値化

官民連携基盤整備推進調査費の制度概要

民間の事業活動と連携した自治体のインフラ整備の事業化検討を支援

○民間の事業活動計画と一体となって推進する事業のうち、地方公共団体が整備するインフラの概略(基本)設計や基礎データ収集、整備効果検討などに必要な調査費を補助。

＜目的＞

- ・基盤整備の構想段階から事業実施段階への円滑かつ速やかな移行を支援。
- ・民間の意思決定のタイミングに合わせた機動的な支援により、民間の事業活動と一体となった基盤整備の早期効果発現に寄与。
- ・民間の活力を活かすことで、地域の個性や強みを活かした社会基盤整備を効果的に推進することが可能。

事業概要

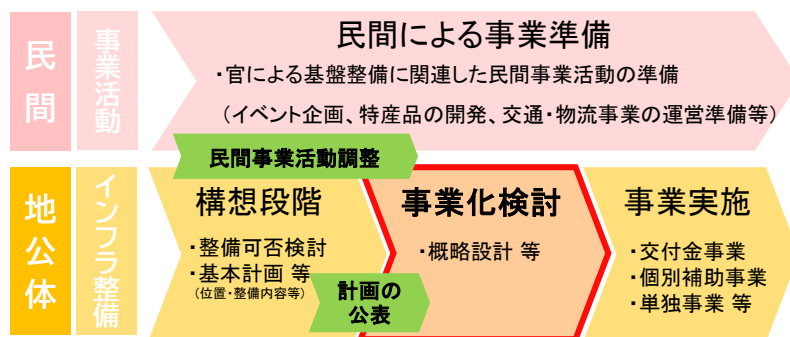
- 対象事業:
国土交通省所管の社会資本整備事業
(道路、港湾、河川、公園、市街地整備等)
- 補助対象:都道府県、特別区及び市町村
(一部事務組合及び広域連合を含む)
- 補助率:1/2以内
- 募集回数:年3回程度



— イメージ —

支援内容

○事業フロー



官民連携の相乗効果
による地域活性化

- ・民間による事業活動の実施
- ・インフラの供用

本調査費で支援

○支援内容:インフラ整備の事業化検討に必要な調査

- ① 概略設計: 基本的仕様の検討、概略設計図、パース作成、概算事業費算出 等
 - ② 基礎データ収集: 概略設計に必要な地形、地質、交通量等の調査 等
 - ③ 整備効果検討: インフラ整備による効果、便益、経済効果の検討 等
- ※ PPP/PFI導入可能性検討(PPP/PFI手法の選定、官民の役割分担、VFMの算定 等)についても関連する調査として上記調査に併せて実施可能